

## 「心の資本」を増強しようーその2

お金や資産より大事になる「心の資本」とは、具体的にどういうことかについては前号で書きませんでした。お金、不動産、名誉や地位よりも大事なもの、現代の資本主義は自由主義の競争原理で財産を増やし成長することが目標です。この資本と異なる社会を幸せにする「心の資本」を現代の若い世代は求めつつあるのです。

人生100歳時代といわれるようになり、すでに70歳代を迎えている私たちシニアより深刻な問題として現代の40歳から60歳代の世代は考え行動しています。

私たち高度成長を担ってきたシニア世代はこの資本主義の価値観の真ただ中を歩んできているのです。チョコちゃんに「ボーっと生きてんじゃねーよ」と叱られないように、これからでも生きていくことの真実を見つめていきたいと思うのです。

そのような前置きをして前号でも紹介した日立製作所の研究所フェロー矢野和男博士の論文を私なりに理解して「心の資本」とは何かを書いてみます。

博士は多くの人々の心のデータを採取してビッグデータを収集しました。このデータで明らかになったのは、自分一人では幸せになれない、幸せはまわりとの「よい人間関係がつくられていること」によって決まる。幸せを高めるためには「まわりとのよい関係を自らがつくること」、その最も有効な方法は「協創」であるということです。

年功序列に従った上下関係や、自分の立場を優先にして物事を決めいくのではなく、相手の立場を考えて、まわりの人たちと協創活動に一人ひとりが貢献して責任を担っていくことが必要になります。

「心の資本」による持続的な幸せの根源は次の四要素から成るとしています。

1. 自らの生き方は、自らが見つかること
2. 自信を持って歩んでいけること、人に教育指導ができるようになること
3. 困難にも立ち向かうこと
4. 複雑な状況を楽観主義でポジティブにとらえる力

このような「心の資本」を持った人や組織は、幸せで生産性が高いということが明らかにされています。しかも、この「心の資本」は学習したり訓練を受けたり、経験を積むことで高めることが可能なのです。

子どものころに、父親から、よく「なせばなる、なさねばならぬ何事も」とよくいわれました。このような考え方は社会が豊かになると精神論や根性論として一蹴されるようになりました。しかし、「なせばなる」は「心の資本」と重なることが多いのです。この「心の資本」を蓄積することがますます必要になる、そして博士は、現在のシニア諸先輩には、ぜひとも世界に先駆けて模範を示していただきたい、と述べています。